

令和3年11月12日
愛媛大学

愛媛大学の3研究センターが共同利用・共同研究拠点として 文部科学大臣から認定

-プロテオサイエンスセンター(PROOS)、沿岸環境科学研究センター(CMES)、
地球深部ダイナミクス研究センター(GRC)-

<記者説明会の実施>

文部科学省では、日本全体の学術研究の発展、国際的な頭脳循環のハブ・人材育成拠点、異分野融合や新しい学術分野の創成を目的として、個々の大学の枠を越えた、大型の研究設備や大量の資料・データ等を用いた国内外研究者との共同利用や共同研究を行うことができる優れた大学附属の研究施設を「共同利用・共同研究拠点」として大臣認定しています。

この度、第4期中期目標期間（令和4～9年度）において、プロテオサイエンスセンター（PROOS）が設置予定の「プロテオインタクトーム解析共同研究拠点（PRIME）」が新規拠点認定されるとともに、沿岸環境科学研究センター（CMES）が運営する「化学汚染・沿岸環境研究拠点（LaMer）」、地球深部ダイナミクス研究センター（GRC）が運営する「先進超高压科学研究拠点（PRIUS）」の認定が更新されることとなりました。

今回認定された「共同利用・共同研究拠点」72拠点中、旧帝大を除く32拠点において、本学が3つもの拠点認定を受けたことは、地方にありながら、国際的・先導的機能を有する先端研究分野を重点的に育成してきた本学の取組が国内外から高く評価された証といえます。

今後は、この3拠点が核となり、第4期中期目標期間における愛媛大学の戦略の柱の一つである先端研究を更に推進していきます。

つきましては、下記のとおり記者説明会を実施しますので、取材くださいますようお願いいたします。

記

日時： 令和3年11月19日（金）13時00分～14時00分（受付12時30分～）

（説明会終了後、各センターの実験室などを順にご案内いたします）

場所： 愛媛大学本部5階 第1会議室（別添参照）

説明者： 愛媛大学長 仁科 弘重

理事・副学長（学術担当） 満田 憲昭

プロテオサイエンスセンター長・教授 澤崎 達也

沿岸環境科学研究センター長・教授 郭 新宇

地球深部ダイナミクス研究センター長・教授 入船 徹男

※送付資料5枚（本紙を含む）

説明会に関する問い合わせ先

●研究支援部研究支援課 Tel: 089-927-9135 E-mail: kikakuse@stu.ehime-u.ac.jp

研究に関する問い合わせ先

●沿岸環境科学研究センター 郭 新宇
Tel: 089-927-9824

E-mail: guo.xinyu.mz@ehime-u.ac.jp

●プロテオサイエンスセンター 澤崎 達也
Tel: 089-927-8530

E-mail: sawasaki.tatsuva.mf@ehime-u.ac.jp

●地球深部ダイナミクス研究センター 入船 徹男
Tel: 089-927-9645、8197

E-mail: irifune@dpc.ehime-u.ac.jp

設置予定の「プロテオインタクトーム解析共同研究拠点」が共同利用・共同研究拠点として文部科学大臣から新規認定、また、既存の「化学汚染・沿岸環境研究拠点」と「超高压科学研究拠点」も認定更新され、愛媛大学では 3 研究センターが拠点認定されました。

- ◆共同利用・共同研究拠点制度については、下記の文部科学省ホームページをご覧ください。◆
(共同利用・共同研究拠点) https://www.mext.go.jp/a_menu/kyoten/index.htm
(令和 4 年度からの認定) https://www.mext.go.jp/a_menu/kyoten/1409443_00002.htm
-

プロテオインタクトーム解析共同研究拠点 (新規認定)

PROS Joint Research Program for Protein Interactome : 通称 PRiME

プロテオサイエンスセンター (PROS) が設置予定の PRiME は、第 4 期中期目標期間 (令和 4 年度～令和 9 年度) における「共同利用・共同研究拠点」として文部科学大臣より新規認定されました。

PRiME は、基礎生物学から医歯薬学さらには農学に及ぶ生命科学の幅広い分野において不可欠な**タンパク質相互作用の実態を、生化学的解析および生体内解析の双方から網羅的に明らかにするインタクトーム解析 (プロテオインタクトーム解析) の中核的拠点**です。我が国の生命科学研究の発展への寄与を目的として、PROS が有する独自の無細胞タンパク質合成技術とタンパク質相互作用の解析技術等を用いた共同利用・共同研究を推進しています。また、社会実装に向けた新規薬剤や新規診断手法の開発等、多数の企業との活発な共同研究を展開しています。

拠点認定を受けた今後、国内外の大学や研究機関、バイオ企業との共同研究機能をさらに強化するとともに、将来を担う若手研究者の育成や国際化に貢献し、研究成果を迅速に社会配信・実装することができる拠点として、我が国のプロテオインタクトーム解析を牽引します。

化学汚染・沿岸環境研究拠点 (認定更新)

Leading Academia in Marine and Environment Pollution Research : 通称 LaMer

沿岸環境科学研究センター (CMES) が運営する LaMer は、第 3 期 (平成 28 年度～令和 3 年度) に引き続き第 4 期も拠点認定を受けました。

第 3 期の LaMer では、**地球規模で生物試料を採取し保存してきた世界唯一の施設である「es-BANK」**や環境汚染物質分析機器・毒性解析装置等の特色ある施設・設備を活用し、海洋研究を核としつつ、環境化学や沿岸環境科学など、多様な研究領域の共同研究を推進してきました。

第 4 期では、日本やアジア諸国の先端研究を牽引する「アジアの環境研究拠点」となることを目標とします。先端研究設備と es-BANK を活用し、CMES の得意分野に関する学際的共同研究を一層強化するとともに、ヒト・情報・技術・試料の「ハブ」となってブレークスルー型研究を推進します。さらに、CMES 独自のアジア研究者ネットワークを活かした国際共同研究を加速化することに加え、国際シンポジウムなどを開催して研究者との交流の機会を増やし、国際的リーダー人材の育成を目指します。

先進超高压科学研究拠点 (認定更新)

Premier Research Institute for Ultrahigh-pressure Sciences : 通称 PRIUS

地球深部ダイナミクス研究センター (GRC) が運営する PRIUS は、第 2 期 (平成 22 年度～27 年度) 中の平成 25 年度に初めて拠点認定され、第 3 期ならびに今回の第 4 期も拠点認定を受けました。

現在までの PRIUS では、**世界最大を含む最多の大型超高压合成装置**や、GRC が開発に成功した**世界最硬物質「ヒメダイヤ」**、また GRC 独自の手法による第一原理計算・流体力学計算など、先端的な実験設備・技術や高度な数値計算技術に基づき、超高压を用いた地球・惑星深部科学や物質科学・材料科学などの分野を中心に、国内外の研究グループと年間 100 件程度の共同研究をすすめています。

第 4 期においては、とりわけ「動的地球科学」、「惑星深部科学」、「超高压材料科学」を重要なキーワードとして、国際的・学際的な研究拠点の形成を目指した取り組みを行う予定です。

令和4年度からの共同利用・共同研究拠点一覧(国立大学が中核の拠点)

| 通し 番号 | 大学等名 (単独型数、NW型数) | 研究施設名 | 拠点 構成※ | 共同利用・共同研究拠点名 |
|----------|-------------------------|--------------------------|-----------|---|
| 1 | 北海道大学 (単独型4、NW型1) | 遺伝子病制御研究所 | 単独型 | 細菌やウイルスの持続性感染により発生する 感染症の先端的な研究拠点 |
| 2 | | 人獣共通感染症国際共同研究所 | 単独型 | 人獣共通感染症研究拠点 |
| 3 | | スラブ・ユーラシア研究センター | 単独型 | スラブ・ユーラシア地域研究にかかわる拠点 |
| 4 | | 触媒科学研究所 | NW型 | 触媒科学計測共同研究拠点 |
| 5 | | 低温科学研究所 | 単独型 | 低温科学研究拠点 |
| 6 | 帯広畜産大学 (単独型1) | 原虫病研究センター | 単独型 | 原虫病制圧に向けた国際的共同研究拠点 |
| 7 | 東北大学 (単独型4) | 加齢医学研究所 | 単独型 | 加齢医学研究拠点 |
| 8 | | 電気通信研究所 | 単独型 | 情報通信共同研究拠点 |
| 9 | | 電子光学研究センター | 単独型 | 電子光学研究拠点 |
| 10 | | 流体科学研究所 | 単独型 | 流体科学国際研究教育拠点 |
| 11 | 筑波大学 (単独型3、NW型1) | アイソトープ環境動態研究センター | NW型 | 放射能環境動態・影響評価ネットワーク共同研究拠点 |
| 12 | | 計算科学研究センター | 単独型 | 先端学際計算科学共同研究拠点 |
| 13 | | つくば機能植物イノベーション研究センター | 単独型 | 形質転換植物デザイン研究拠点 |
| 14 | | ヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究センター | 単独型 | 人の活力・健康を増進する ヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究拠点 |
| 15 | 群馬大学 (単独型1) | 生体調節研究所 | 単独型 | 内分泌・代謝学共同研究拠点 |
| 16 | 千葉大学 (単独型2) | 環境リモートセンシング研究センター | 単独型 | 環境リモートセンシング研究拠点 |
| 17 | | 真菌医学研究センター | 単独型 | 真菌感染症研究拠点 |
| 18 | 東京大学 (単独型6、NW型1) | 空間情報科学研究センター | 単独型 | 空間情報科学研究拠点 |
| 19 | | 地震研究所 | 単独型 | 地震・火山科学の共同利用・共同研究拠点 |
| 20 | | 情報基盤センター | NW型 | 学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点 |
| 21 | | 史料編纂所 | 単独型 | 日本史史料の研究資源化に関する研究拠点 |
| 22 | | 素粒子物理国際研究センター | 単独型 | 最高エネルギー素粒子物理学研究拠点 |
| 23 | | 大気海洋研究所 | 単独型 | 大気海洋研究拠点 |
| 24 | | 物性研究所 | 単独型 | 物性科学研究拠点 |
| 25 | 東京医科歯科大学 (単独型1、NW型1) | 生体材料工学研究所 | NW型 | 生体医歯工学共同研究拠点 |
| 26 | | 難治疾患研究所 | 単独型 | 難治疾患共同研究拠点 |
| 27 | 東京外国語大学 (単独型1) | アジア・アフリカ言語文化研究所 | 単独型 | アジア・アフリカの言語文化に関する国際的研究拠点 |
| 28 | 東京工業大学 (単独型1) | 科学技術創成研究院フロンティア材料研究所 | 単独型 | 先端無機材料共同研究拠点 |
| 29 | 一橋大学 (単独型1) | 経済研究所 | 単独型 | 「日本および世界経済の高度実証分析」拠点 |
| 30 | 新潟大学 (単独型1) | 脳研究所 | 単独型 | 病理リソースを活用した脳神経病態共同研究拠点 |
| 31 | 金沢大学 (単独型2) | がん進展制御研究所 | 単独型 | がんの転移・薬剤耐性に関わる先導的共同研究拠点 |
| 32 | | 環日本海域環境研究センター | 単独型 | 越境汚染に伴う環境変動に関する国際共同研究拠点 |
| 33 | 名古屋大学 (単独型3、NW型1) | 宇宙地球環境研究所 | 単独型 | 宇宙地球環境研究拠点 |
| 34 | | 低温プラズマ科学研究センター | 単独型 | 低温プラズマ科学研究拠点 |
| 35 | | 未来材料・システム研究所 | 単独型 | 環境調和型で持続発展可能な省エネルギー・創エネルギーの ための材料とシステム研究拠点 |
| 36 | | 糖鎖生命科学コア研究所(名古屋大学・岐阜大学) | NW型 | 糖鎖生命科学連携ネットワーク型拠点 |

| 通し 番号 | 大学等名 (単独型数、NW型数) | 研究施設名 | 拠点 構成※ | 共同利用・共同研究拠点名 |
|----------|---------------------|------------------------------|-----------|--------------------------------------|
| 37 | 京都大学 (単独型11) | 医生物学研究所 | 単独型 | ウイルス・幹細胞システム医生物学共同研究拠点 |
| 38 | | エネルギー理工学研究所 | 単独型 | ゼロエミッションエネルギー研究拠点 |
| 39 | | 基礎物理学研究所 | 単独型 | 理論物理学研究拠点 |
| 40 | | 経済研究所 | 単独型 | 先端経済理論の国際的共同研究拠点 |
| 41 | | 人文科学研究所 | 単独型 | 人文学諸領域の複合的共同研究国際拠点 |
| 42 | | 生存圏研究所 | 単独型 | 生存圏科学の共同利用・共同研究拠点 |
| 43 | | 生態学研究センター | 単独型 | 生態学・生物多様性科学の先端的共同利用・共同研究拠点 |
| 44 | | 東南アジア地域研究研究所 | 単独型 | グローバル共生に向けた東南アジア地域研究の 国際共同研究拠点 |
| 45 | | 複合原子力科学研究所 | 単独型 | 複合原子力科学拠点 |
| 46 | | 防災研究所 | 単独型 | 自然災害に関する総合防災学の共同利用・共同研究拠点 |
| 47 | | 野生動物研究センター | 単独型 | 絶滅の危機に瀕する野生動物 (大型哺乳類等)の保全に関する研究拠点 |
| 48 | 大阪大学 (単独型5、NW型1) | 産業科学研究所 | NW型 | 物質・デバイス領域共同研究拠点 |
| 49 | | 社会経済研究所 | 単独型 | 行動経済学研究拠点 |
| 50 | | 接合科学研究所 | 単独型 | 接合科学共同利用・共同研究拠点 |
| 51 | | 蛋白質研究所 | 単独型 | 蛋白質研究共同利用・共同研究拠点 |
| 52 | | 微生物病研究所 | 単独型 | 微生物病共同研究拠点 |
| 53 | | レーザー科学研究所 | 単独型 | 高エネルギー密度科学先端研究拠点 |
| 54 | 鳥取大学 (単独型1) | 乾燥地研究センター | 単独型 | 乾燥地科学拠点 |
| 55 | 岡山大学 (単独型2) | 資源植物科学研究所 | 単独型 | 植物遺伝資源・ストレス科学研究拠点 |
| 56 | | 惑星物質研究所 | 単独型 | 惑星物質科学研究拠点 |
| 57 | 広島大学 (単独型1、NW型1) | 原爆放射線医科学研究所 | NW型 | 放射線災害・医科学研究拠点 |
| 58 | | 放射光科学研究センター | 単独型 | 放射光物質物理学研究拠点 |
| 59 | 徳島大学 (単独型1) | 先端酵素学研究所 | 単独型 | 酵素学研究拠点 |
| 60 | 愛媛大学 (単独型3) | 沿岸環境科学研究センター | 単独型 | 化学汚染・沿岸環境研究拠点 |
| 61 | | 地球深部ダイナミクス研究センター | 単独型 | 先進超高压科学研究拠点 |
| 62 | | プロテオサイエンスセンター | 単独型 | プロテオインタクトーム解析共同研究拠点 |
| 63 | 高知大学 (単独型1) | 海洋コア総合研究センター | 単独型 | 地球掘削科学国際研究拠点 |
| 64 | 九州大学 (単独型3) | 応用力学研究所 | 単独型 | 応用力学共同研究拠点 |
| 65 | | 生体防御医学研究所 | 単独型 | 多階層生体防御システム研究拠点 |
| 66 | | マス・フォア・インダストリ研究所 | 単独型 | 産業数学の先進的・基礎的共同研究拠点 |
| 67 | 佐賀大学 (単独型1) | 海洋エネルギー研究センター | 単独型 | 海洋エネルギー創成と応用の先導的共同研究拠点 |
| 68 | 長崎大学 (単独型2) | 高度感染症研究センター | 単独型 | 新興感染症制御研究拠点 |
| 69 | | 熱帯医学研究所 | 単独型 | 熱帯医学研究拠点 |
| 70 | 熊本大学 (単独型2) | 発生医学研究所 | 単独型 | 発生医学の共同研究拠点 |
| 71 | | 先進軽金属材料国際研究機構 (熊本大学・富山大学) | 単独型 | 軽金属材料共同研究拠点 |
| 72 | 琉球大学 (単独型1) | 熱帯生物圏研究センター | 単独型 | 熱帯生物圏における先端的環境生命科学共同研究拠点 |

※注

- 1 「単独型」とは、当該研究施設のみで共同利用・共同研究拠点を形成するもの。
- 2 「NW型」(ネットワーク型)とは、複数の研究施設が連携して1つの共同利用・共同研究拠点を形成するもの。
本資料では、NWの中核施設となる研究施設のみを掲げている。

会場ご案内

記者説明会
会場

大学本部5階 第1会議室

愛媛大学
EHI ME UNIVERSITY

法学部・教育学部・社会共創学部・理学部・工学部・スーパーサイエンス特別コース

城北キャンパス

〒790-8577 松山市文京町3番 TEL 089-927-9000(代)

アイコン凡例 ▲ 出入口 P 駐車場 P♿ 身体障害者用駐車場
P 駐輪場 ⑤ 駐輪場 ⑥ 食堂・カフェ

キャンパス内全面禁煙



【詳しい情報はこちらから】
愛媛大学生協
<https://ehimedas.com/shop/>

- A 生協ショップ ひめか
- B 愛大ショップ えみか
- C カフェテリア食堂 バルト
- C カフェテリア食堂 リーセス
- D カジュアルレストラン メイプル
- E ミュージアムカフェ
- F アグアカフェ
- G コスタ
- H テラリス

J O H O K U
C A M P U S